

【最後に】

初めての海外留学もついに終わりを迎えました。この1年間の留学では本当にたくさんの貴重な経験ができました。パスポートを持っていなかった私は当然日本語が使えない場所に行ったことがなく、また英語も喋れないので留学の前日は不安で眠ることができませんでした。実際に行ってみて思ったのは「語学というのはツールだな」ということです。文法が出来ていなくても、単語の組み合わせで相手は何となくわかってくれます。何よりも大切なのは伝えようとする気持ちです。留学中も「あなたの言っていること理解できない」と言われたこともたくさんありますが、言い方を変えたりして諦めないで伝えようとする最後に「これのことね!」と分かってくれる人が大半です。また失敗を考えるよりも先に“とりあえずやってみよう!”のチャレンジ精神も付いた気がします。

また、人と人との縁の大切さも改めて感じました。語学学校にはいろいろな国の人がいましたが、私はフランスには興味がありましたが、他の国のことは知らなかったので話しをするたびにその国の文化や価値観など新しい発見がありました。また、日本人との出会いもとても貴重なものがありました。語学学校には日本人がほとんどいなかったのですが、数週間だけ仕事の合間に通う人や定年退職してフランス語を勉強している人に会い、その方達の人生や仕事の話などを聞かせて頂く機会がありました。また、モンサンミッシェルやロワール渓谷のツアーに参加した時もたった1日でしたが、新しい友達や知り合いができ、別の日に一緒にパリ観光もしました。たくさんの人々に出会い、いろいろな刺激を受けましたが、外国人にしろ日本人にしろ留学に行かなければ絶対に会うことがなかったと思うとなかなか感慨深いものがあります。また、当たり前ですが外国の友達との共通語はフランス語です。違う国で生まれ違う文化で育ってきた人とたまたま出会い、フランス語という言語で意思疎通ができると考えると言語の素晴らしさを初めて実感することが出来ました。8月下旬に日本に帰りましたが、何人かの日本人の方と再会でき、またドイツからも語学学校の友達が会いに来てくれ、一緒に京都や大阪の観光をして楽しむことが出来ました。



クラスメイトと先生とご飯



留学先の大好きな友達



そもそも私がフランスに留学すると決めたのは高校生の時です。もともと世界史が好きだったのと、世界史の先生の旅行話が面白くて私も世界のいろいろなところに行きたいと思い始めたのがきっかけです。そんな私は中学生のころから英語が大嫌いで、どうしたら英語を使わずに行きたいところに行けるか考えた結果、1番行きたい国はフランスだから大学でフランス語を勉強してフランス留学に行こうと決めました。当然、周りに話すと驚かれましたし「英語もできないのにフランス語ができるのか。」とも言われました。しかし、無事にフランス留学を終えた今、私が大切だと思うのは“本当にやりたいことならば、周りの人に流されず信念を貫くこと”です。また周りに意思表示することも大切だと思いました。ネガティブなことを言ってくる人もたくさんいますが、言いたい人には言わせておけばいいと思います。それよりも協力してくれたり、応援してくれる人が必ずいることを忘れないでください。フランス語を勉強できる大学に受かるよう協力してくださった高校の先生方、海外での生活を教えてくれたり辛い時に支えてくれた日本や留学先の友人たち、ビザや語学学校、寮の手続きを手伝ってくださったり困った時にアドバイスをくださった今中先生やランゲージカフェのブノワさん、最初は半信半疑ながらも留学の費用や必要な書類を用意し最後まで信じて応援してくれた家族、今振りかえると本当にたくさんの人にお世話になりました。

私にとってこの留学は楽しいだけのものではなく、正直8割くらい辛くて寂しくて苦しかったです。何度も泣きました。でも、それを乗り越えることができたのは先ほど挙げた人々が支えてくれたからであり、また留学先で出会った街の人々や先生、友達との楽しい思い出があるからです。私は「留学が辛くて苦しいことになるわかっていてもこの留学をするか?」と何度も考えました。けれど、答えは決まって「もちろん!」です。それほどこの留学ではたくさんの出会いやいろいろな経験ができ、私を成長させてくれました。また絶対フランスに、そして大好きな街ストラスブールに行きます!これからまだまだ頑張ります!最後まで読んでいただきありがとうございます。このフランス便りは9月下旬からまたストラスブールに留学する2人が受け継いでくれるらしいので楽しみに!それでは! À bientôt !!!

